

ご利用案内

通常放映日時＝土・日・祝日

通常放映時間・内容(10月～12月)

11:00(幼児～小学生向け)	13:30(小～中学生向け)	15:00(高校生～大人向け)
たいようくんとおつきちゃん ポケットモンスター XY 宇宙の破片	宇宙望遠鏡 ポケットモンスター XY 宇宙の破片 星空解説 ※12/6(土)の「親子プラネタリウム」は別内容となります。	活動する宇宙 かぐやとKAGUYA ～月が地球にくれた贈り物～ 星空解説

※ご希望による放映も行います。事前予約が必要となりますので、詳細はお問い合わせください。

観覧料

高校生以上(個人)	510円
高校生以上 (団体20名以上)	410円
中学生以下	無料

☆博物館パスポート1枚につき、高校生以上1名無料

☆転入世帯優待券1枚につき、1世帯家族無料

☆障害者手帳持参により、本人とその介助者1名無料

☆市内在住70歳以上の方は無料

☆その他、各種イベント開催時には無料

アクセス

交通案内

〈バス〉 松本バスターミナル3番のりば(アリオ1階ホーム)より乗車
 ①入山辺線 里山辺出張所前より下車 徒歩1分
 ②美ヶ原温泉線 新井橋より下車 徒歩15分

〈車〉 長野自動車道松本ICより約20分 駐車場60台(無料)

編集後記

「ほしみる」No.18の発行です。
 今回は星座のなかでも特に人気のあるオリオン座について特集をしました。オリオンの三ツ星が夜空できれいに見えるようになると、冬が来たのだな、と実感します。澄んだ華やかな星空は、冬の楽しみの1つです。

松本市教育文化センター

〒390-0221 松本市里山辺 2930-1

TEL:0263-32-7600 FAX:0263-32-7604

E-mail:kyoubun@city.matsumoto.nagano.jp

ほしみる

No.18 2014.11.29

冬の夜空の英雄・オリオン

星座の中にはギリシャ神話の登場人物をモデルとしたものも少なくありません。今回は、冬の星座の代表格であるオリオン座を特集したいと思います。

ベテルギウス

オリオンの右肩にある1等星です。太陽の20倍の質量をもつ赤色超巨星であり、肉眼でも赤く輝いている姿が確認できます。日本では平家星と呼ばれています。

オリオンの三ツ星

オリオンのベルトの部分にあたる、特徴的な3つの2等星の並びです。オリオン座を見つける目印となります。

オリオン大星雲

小さな3つの星が縦にならんだ「小三ツ星」と呼ばれる部分にある、星のガスや塵の集まりが光って見えるものです。オリオン座大星雲の中心部には「トラペジウム」と呼ばれる4重星を主要とした若い星々の集まりがあります。

また、小三ツ星は「オリオンの剣」とも呼ばれています。

オリオンってどんな人?

オリオンは、ギリシャ神話に登場する強い狩人の男性です。海の神ポセイドンの息子として生まれ、海の中を歩く能力を持っていました。背が高くたくましい、美青年であったと称えられています。

その一方で、やや乱暴でうぬぼれが強い人物として描かれています。また、女性好きでもあり、多くの女性との恋物語が伝わっています。

リゲル

オリオンの左膝にある1等星です。青色超巨星であり、肉眼でも青白く輝く姿が確認できます。日本では源氏星と呼ばれています。

オリオンとアルテミス

オリオンは、亡くなった後に星座となりますが、どうして死んだのかはさまざまなお話があります。

その中の1つに、月と狩りの女神アルテミスとの悲恋があります。お互いに狩りの名人であったオリオンとアルテミスはいつしか恋に落ちますが、アルテミスの兄である太陽の神アポロンは快く思わず、アルテミスをだましてその弓でオリオンを射ち殺させます。

アルテミスは悲しみ、オリオンを星座にしました。冬の月はオリオン座のすぐそばを通りますが、アルテミスが月に変身して恋人のオリオンに会いに行っているためだと伝えられています。

オリオン座と関係の深い星座

おうし座

肩の部分に「プレアデス星団」と呼ばれる星の集まりがあります。

プレアデス星団は、元々は美しい7人姉妹でしたが、オリオンに気に入られ追い回されてしまいました。7姉妹はオリオンから逃れるために星の群れへと姿を変えました。

おおいぬ座、こいぬ座

狩人のオリオンが引き連れている猟犬とされる説があります。

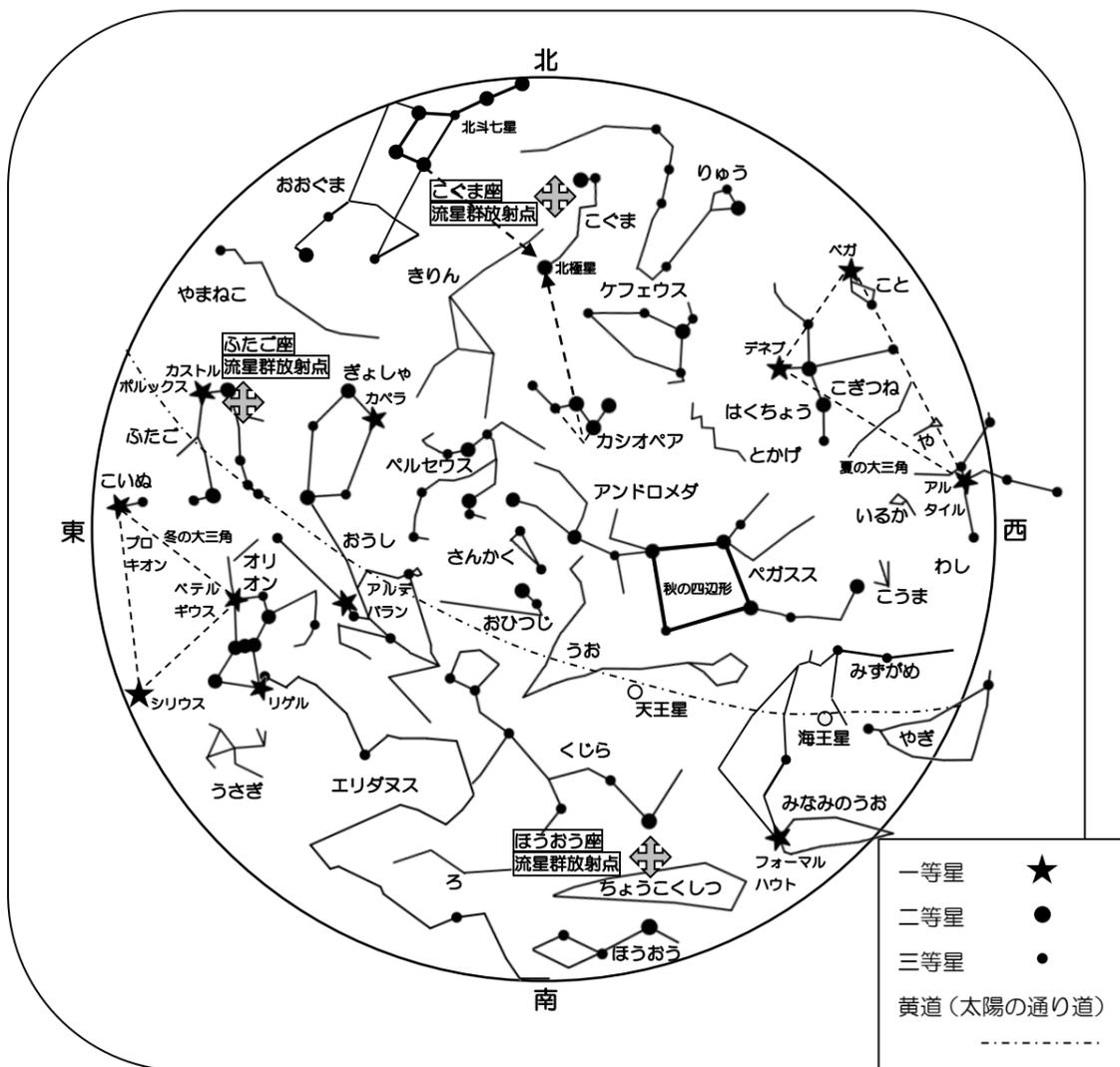
さそり座

自分の強さをいばり散らしていたオリオンをこらしめるために、女神により地上に下ろされたさそりと言われていました。

オリオン座はさそり座を恐れ、夏の星座であるさそり座から隠れるように冬に現れるのだと伝えられています。

季節の星空

12月15日20時頃の松本の星空



12月の主な天文情報

- 2(火) ほうおう座流星群が極大
- 6(土) 満月
- 14(日) ふたご座流星群が極大
- 15(月) 木星の衛星ガニメデがイオを隠す
- 17(水) 木星の衛星エウロパがイオを隠す
- 20(土) 月と土星が大接近、月が土星の北を通過
- 22(月) 新月、冬至
- 23(火) こぐま座流星群が極大
- 24(水) 木星の衛星エウロパがイオを隠す
- 29(月) 木星の衛星ガニメデがイオを隠す

★
極大→活動が最も活発になること。
流星群の場合は、最も多く流星が見られる期間を指します。

★ ガリレオ衛星と相互食

木星には衛星(惑星の周りを回る天体)が60個以上あり、そのうち、イタリアの天文学者ガリレオ・ガリレイが発見した4つの大きな衛星を「ガリレオ衛星」と呼びます。

それぞれ木星に近い順から、イオ、エウロパ、ガニメデ、カリストと名付けられています。

木星の赤道面は6年に1度の周期で地球から見て真横を向くため、赤道面を回るガリレオ衛星も真横を向き、衛星が他の衛星を隠したり、衛星の影に他の衛星が入り込んだりする「相互食」が発生します。

☆☆☆ プラネタリウム事業案内 ☆☆☆

12/6(土) ☆親子プラネタリウム 13:30~
親子連れの方を中心に楽しめるよう、番組の無料投映を行います。
今回のテーマは「オリオン座」です。申し込み不要。先着90人。

12/6(土) ☆天体望遠鏡操作技術講習 18:00~21:00
教文センター屋上に設置されている、天体観測室と大型天体望遠鏡の扱い方についての講習です。
受付開始:11/26(水) 8:30より
定員:5人(高校生以上で、普通の望遠鏡の操作に慣れている方、
未成年は保護者同伴)

※事前申し込みが必要な事業についての受付は、電話受付のみとさせていただきます。

12月の流星群たち

12月は、3つの流星群が見頃を迎えます。

1つ目は、三大流星群の1つにも数えられている「ふたご座流星群」です。1時間あたりの流星の出現数は80個程度で、毎年安定して多くの流星が見られるのが特徴です。

また、放射点はふたご座の2等星カストルの近くにあり、この季節はほぼ1晩中観測することができます。今年は12月5日から20日にかけて出現し、極大日は14日となります。ただし、14日は真夜中頃に東の空から下弦の月(右半分が欠けた半月)が上り始めるため、観測は月が出現する前までが適しています。

2つ目は、「こぐま座流星群」です。12月18日から24日にかけて出現し、極大日は22~23日頃になります。出現数は1時間あたり5~6個と少なめですが、まれに出現数が活発になる年もあります。放射点は北極星に近く、1晩中観測ができます。また、今年の極大日は新月の翌日であるため、月明かりに邪魔をされることなく観測に適しています。

3つ目は、「ほうおう座流星群」です。放射点はちょうこくしつ座付近にあると考えられており、極大日は12月2日の朝9時頃と予想されます。

実はほうおう座流星群は、1956年12月5日に一度だけ突然出現し、以降は現れていないため幻の流星群とよばれています。当時、日本の南極船「宗谷」がインド洋にて、1時間あたり500個にもおよぶ見事な流星群を観測したと記録されています。今年は大出現が期待されていますが、北半球にある日本は極大時に太陽が出ており、放射点が地平線下に沈んでいるため、観測は極めて困難だと考えられます。比較的観測しやすい12月1日の夜から2日の明け方にかけて、南西の地平線に注目してみましょう。